

肝心かなめの 肝臓 のはなし

11

香川大学医学部消化器・神経内科教授

正木 勉

なぜ、C型肝炎ウイルスを駆除 しなければならないかーその2

前号で、C型肝炎ウイルスによる肝硬変は肝細胞がんのハイリスクグループであることを述べました。ここでもう少し、C

型肝炎ウイルスと肝細胞がんについて説明します。

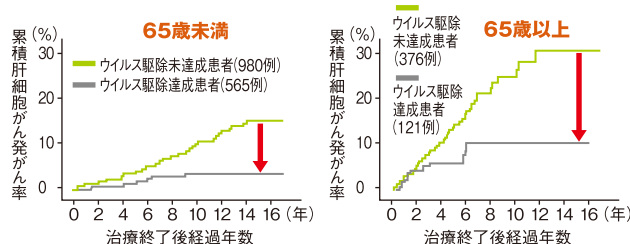
C型肝炎ウイルスを駆除した患者は、65歳以上においても65

歳未満においても、肝細胞がんを発症する確率が極めて下がります(図1)。ただし、65歳以上は65歳未満と比較して、ウイルスを駆除しなければがんの発生率が高く、ウイルスを駆除してもがんの発生率が高いことも知られています。これは、がん発生抑制のためには、できるだけ早い年齢でC型肝炎ウイルスを駆除した方が良いことを示しています。

肝疾患以外でも 死亡・入院リスク

また驚くことに、C型肝炎ウイルス感染者は肝臓疾患以外の疾患でも死亡率が高まります。肝外病変(C型肝炎ウイルスが引き起こす、肝臓以外の臓器や組織への障害)の死亡率は1・35

C型肝炎ウイルス駆除達成患者と未達成患者の肝細胞がん発がん率と経過年数【図1】

C型肝炎ウイルス感染者の疾患別
死亡ハザード比(リスク比)【図2】

死 因	ハザード比
全死亡	1.89
肝臓疾患	12.48
肝細胞がん	21.63
慢性肝疾患及び肝硬変	5.38
肝外病変	1.35
がん(肝細胞がんを除く)	1.32
糖尿病	1.49
循環器系疾患	1.50
腎炎、ネフローゼ症候群、 ネフローゼ	2.77
呼吸器系疾患	0.71

倍、肝細胞がんを除くがんの死亡率は1・32倍、糖尿病による死亡率は1・49倍、循環器による死亡率も1・50倍、腎炎等の腎疾患に関しては、2・77倍も高まっ

ています(図2)。透析患者においては、C型肝炎ウイルスを駆除すると生命が延びることも明らかになっています。このようにC型肝炎ウイルスは、さまざまな疾患の死亡以外にも、さまざまな疾患の入院のリスクを高めることが知られており、駆除しなければならないのです。さて、いよいよ次号からC型肝炎肝臓の診断および治療についてお話しします。